

農産物の安全性や環境に優しい栽培方法を示すグローバルGAP（農業生産工程管理）。その認証取得を支援する農業コンサルティング・ファーム・アライアンス・マネジメント（東京）の松本武社長は、企業の農業参入について、農業に即した経営力を強化する重要性を指摘する。

「農業の現状をどう見ていますか。」

就農者の平均年齢は全国で66歳、中国地方は70歳を超えている。これほど担い手が高齢化した産業はない。経営の視点から、産業として戦略的にやらないといけない。企業の農業参入は大いに結構だ。

「中国地方でも農業に参入する企業は相次いでいます。成功の鍵は。」

企業は経営にたけているが、会社のマネジメントと農業をひとまとめに捉えようと失敗する。コメ、トマト、ニンジン……と全て仕事の性質が違ふ。作業がやりやすい作物がある一方、例えば

ファーム・アライアンス・マネジメント 松本武社長(51)



「農業に経営感覚を」

トマトやモモは集約性が高く、ものすごく細かい作業が要る。

企業が参入するなら「間接参入」がいいだろう。生産のノウハウを持っている農家と組む手法だ。農家が最高のパフォーマンスを発揮できるように、経営面を企業が担えばいい。

「中国地方は農地が狭いなどの課題があります。山が多く平地が少ない特性に合せて展開を考える必要がある。広大な面積の大規模農業法人はつくりにくい。ビニールハウスの施設園芸など集約性の高い作物で、供給と価格の安定を図る方法が適しているのではないか。」

「企業からは、農地の購入などの規制が厳しいという声も聞かれます。」

企業が農地を持つのはよくないだろう。外国人に買収されたら日本の農地が外国人のものになり、日本の食料を握られることになる。これは国際的な常識でもある。

「どんな点に期待していますか。」

やる気のある若手が規模を広げることだ。ただ、規模の拡大にも注意が要る。私の実家は露地野菜の農業法人だが、15畧から50畧に事業を広げる途中で「壁」に気付いた。コメ、麦、大豆は40畧、露地野菜は20畧、施設園芸は2畧を超える

と、農場が分散したり、人の配置が難しくなったりして、経営が複雑になる。コストもかかる。この壁を意識して経営に臨むべきだ。

「経営感覚を磨くにはどうすればいいですか。」

経営の質を高める国際認証にグローバルGAPがある。作業の安全確保や財務の改善など多様な力が付く。規模に関係なく、簡単に取得できる。今やアジアやアフリカ、中南米でも生産者の10%以上が取得している。海外の大手スーパーは仕入れ先に国際認証を求めている。日本の多くの消費者は「国産だから安全」と信じているが、安全を担保する根拠を説明できることが重要だ。

◇
中国地方で相次ぐ企業の農業進出。その課題や影響を、関係者に聞く。

（二井理江）

《略歴》熊本工業大（現宗城大）工学部卒。旭化成工業（現旭化成）を経て、1995年に実家が営む松本農園（熊本県益城町）に入社。同社取締役を退任後、2012年3月にファーム・アライアンス・マネジメントを設立。内閣府の規制改革会議農業ワーキング・グループのメンバーでもある。